

館の運営方針	佐倉市立公民館運営の基本理念を踏まえ、地域の実態や動向に立脚し、住民の自主活動を育て援助しつつ郷土づくりの意識を一層高める。また、各人の生活課題をみつけ、生涯学習の場としての適切な運営に努める。
ジャンルの目標	子どもたちの学習機会を提供する。地域交流や仲間づくりを通じて、佐倉の地域素材を取り入れた体験学習で、「つくる楽しさ」「わかる喜び」「できる自身」を育むこと、職場体験学習により社会的自立や豊かな人間性を育むことを目標とする。

★個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	佐倉っ子塾「志津子ども教室」	地域の大人が指導者となり、佐倉の地域素材を織り交ぜながらの体験や学習をとおして、子どもたちの「つくる楽しさ」「わかる喜び」「できる自信」を育む。
②	ちょこボラ(ちょこっとボランティア)	青少年が志津公民館で職場体験学習をする事業。地域の人とのふれあいや公民館で働く職員と接することを通して、働くことの意義と社会的自立や豊かな人間性を育む。
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

★ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般			
企画	企画段階での課題と解決策	A	A:各個別事業の想定課題は正しかった。 B:各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C:個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i:途中で変更した。 ii:そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B	A:各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B:各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C:各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i:別の方向に進めた。 ii:そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策		主に「しづこうみんかんだより」による募集を行っているが、募集定員に満たないプログラムがあり、募集方法において期間や周知方法の工夫を行う必要がある。また、ちょこボラにおいては、参加希望が少ない現状があり、学校との連携・協力をもっと行う必要がある。
改善	次年度への課題と展望策	B	A:事業拡大。 B:現状規模での継続。 C:事業縮小。 D:目的達成により終了。 E:統合・改善・その他 ()

総合評価	
A	事業規模 A:適切で成果が得られている。 B:課題あり、成果が得られている。 C:課題あり、成果があまりない。 D:成果が得られていない。 E:現段階では判断できない。

成果
佐倉っ子塾「志津子ども教室」については、地域の方々やサークルが講師となり、参加した小学生に対して学ぶ楽しさや作るよこびなどが実感できることで、こどもの成長に寄与している。また、職場体験活動を通じて、地域の人とのふれあいや社会の仕組みを学ぶことに役立っている。
課題
参加者の満足度は高いが、プログラムによっては、募集人数に届かないこともあり、募集方法を工夫する必要がある。公民館だよりの他に、写真等を活用したチラシなどの活用を更に図る必要がある。

★公民館運営審議委員意見

委員	意見なし	
総合評価	A	

委員		意見なし
総合評価	A	

委員		ジャンルについて二つの事業であるが、内容的にも素晴らしい企画だと考える。ちょこボラは参加人数が少ないものの大変に意義のある企画といえる。もともと多くの参加者を見込めない世代にであるが、勇気を持って、中高校生を参加対象とし、実施したことに敬意を表したい。今後とも、例えば中高との連携を図るなどしてぜひチャレンジしていただけるとありがたい。
総合評価	A	

委員		ボランティア(子ども達)の活躍の場を与えてくださる事が子ども達の経験になって自信につながっていく。大人はサポートに回り、接していく事業内容がとてもうれしい。
総合評価	A	

委員		・体験活動が少ない子ども達にとって、体験を通して学ぶ楽しさ、喜びは忘れられない経験となる。 ・講師が地域の人材であれば、地域での交流も一層深まり、非行防止にもつながり成果が大きい。
総合評価	A	

委員		小学生対象の志津こども教室が、つくること・体感することを中心に4プログラム用意されていますが、その内容は多様であり、プログラムづくりの工夫が随所にうかがえます。募集定員に満たないプログラムがあるとのことですが、青少年教育の視点・手法は確かなものであり、自信を持って取り組んでください。何よりも継続的な取り組みを期待しています。 どんなに練られた事業でも、参加者が少ない時などは、担当者の心も折れそうになることも予想されます。まず何よりも、よいプログラムだからといって、必ずしも応募者増に結び付くものではないことを確認した方がよいと思います。情報発信が的確性を欠いたのかも知れませんが、ひよっとすると地域の子どもの興味対象とのズレがあるのかもしれない。しかし、人気メニューと必要メニューは必ずしも一致する訳ではないことから、分析をしっかりと行い、状況を見据えて、必要であると判断される事業は、何よりも継続していくことが大切だと思います。直ちに参加者の多寡で評価することは危険ではないかと思えます。評価5項目で見れば、効率性よりも、第一義的に必要性でこそ評価・判断しなければならないと思います。 「ちょこボラ」は、公民館の青少年教育を担う青少年を育成するという、興味深く楽しみな体験型事業です。全体として座学よりも体験型学習を中心に組まれています。掲げた課題どおりの成果が得られていると思います。参加者数にとらわれるよりも、現在の事業を発展させるとともに、より多くのプログラムが提案、実践され、多様化している青少年の意識に幅広く訴えかけられる公民館青少年教育事業であって欲しいと思います。
総合評価	A	

委員		・各事業とも、グループや団体として対象者が決まっているものではないだけに、参加人数が多い少ないはたいへん難しさを感じました。
総合評価	A	

委員		佐倉っ子塾「志津子ども教室」は、子どもたちが楽しく健やかに育むことに期待し継続を希望します。 ちょこボラ(ちょこっとボランティア)は、中・高学生が職場体験学習により社会的視野が広くなり、人間性を育む良いきっかけの事業であるので参加者を募る方策を検討し、継続を望みます。
総合評価	A	

委員		小学生向けの事業については、さまざまな分野で興味深い内容になっていると思う。 ちょこボラについては、中・高のカリキュラムの福祉学習・総合学習に取り込んでもらうなど、学校との連携が必要だと思う。
総合評価	A	

委員		子どもたちに、作る楽しさを目標にした場及び機会を提供されており、今後も大いに期待がもてる企画内容だと思います。
総合評価	A	

委員		両事業とも、地域の人、サークルの人そして公民館職員が一致協力して事業を進めており、チームワークの良さを感じます。今後も継続して下さい。
総合評価	A	

委員		次代を担う人づくりは公民館事業の要であり、小中学生の体験学習、中高生を対象としたボランティア体験はそれである。実際に参加して初めて楽しさを知り、生きる力が育まれる。目標にかなった事業展開だ。「ちょこボラ」このフレーズ、きっと中高生のハートに届くはず。25年度は高校生6人とどまったが、大半が「貴重な体験ができた。またやりたい」。意欲のある中高生は少なくないはずだ。
総合評価	A	

委員		
総合評価		